

つかさ会 会報



2023.1月

会員の皆さん、連日寒い日が続いていますが、いかがお過ごしでしょうか。岐阜県内のほとんどの医療機関で、新型コロナウイルス感染症蔓延により従来のように入院患者さんのご家族やご友人が直接面会することが困難な状況となりました。そこで岐阜大学医学部附属病院では、AI搭載型ロボット(temi)の導入により、患者さんとそのご家族がより快適に入院生活をお過ごしいただける環境を目指すべく、クラウドファンディングへの挑戦を決めました。詳細は当院のHP(お知らせコーナーにリンクがあります)に記載がありますので、ご興味のある方はぜひご覧になってみてください。さて今月は、昨年秋より当科に赴任された、坂口先生よりさかえの読みどころ紹介をしてもらいます。

つかさ会のみなさん、はじめまして。岐阜大学医学部附属病院 免疫・内分泌内科の坂口賢太郎です。今回のさかえでは、『特集 1 (P.8-15)』として 2022 年 9 月に日本糖尿病学会から発表された「2 型糖尿病の薬物療法のアルゴリズム」について紹介されています。糖尿病治療薬の開発の歴史は今から約 100 年前の 1921 年にインスリンが発見されたことから始まります。その後 1950 年代に初の経口血糖降下薬であるスルホニル尿素薬(SU 薬)が開発され、以降も様々な治療薬が追加されています。直近では 2021 年にイメグリミンが発売開始となり、2 型糖尿病の方には計 10 種類の糖尿病薬が使用できるようになりました。最近では体重減少効果が期待できる治療薬や、慢性腎臓病・心血管疾患・心不全に対して優れた抑制効果を示す治療薬も存在するため、病態や併存疾患に応じた薬剤選択ができるようなアルゴリズムとなっています。本特集をぜひご一読いただき、主治医の先生とご自身の治療薬について相談するきっかけとしてみてください。

また『特集 2 (P.33-38)』としてインフルエンザと COVID-19 について、最新の知見が紹介されています。COVID-19 が流行し始めた 2019-2020 シーズン以降、感染対策の徹底の効果かインフルエンザの感染者は極めて少ない状態で推移していました。岐阜県でも 2020-2021 シーズンおよび 2021-2022 シーズンでは、インフルエンザ患者報告数が流行入りの基準に達することはありませんでした。しかし 2022 年の夏季に南半球のオーストラリアで COVID-19 の発生以降初めてインフルエンザが流行したため冬季には日本でも流行することが懸念されており、実際に岐阜県でも 2023 年 1 月第 1 週に 3 年ぶりに流行入りの基準を超えました。本特集を通して感染予防等についての知識を一緒に深めていけると良いですね。

10 年に 1 度の寒波が押し寄せるなどまだまだ厳しい寒さが続きそうですが、インフルエンザや COVID-19 をはじめとした感染症への対策や体調管理に気を付けつつ、暖かい春の訪れを待ちましょう。2023 年が皆様にとって素敵な日々となりますよう、お祈りしております。